



British Politics Today

2012年5月1日
第1巻 第4号

著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk
tomo@kikugawa.co.uk

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 オムニシャンブルズ
- 3 スコットランドの独立問題
- 4 北アイルランドのトラブルズ
- 5 英国新旧政治家列伝
- 6 英国から見た日本

政治には困難な時が
つきもの

ポリティカル・キャピタル(国民からの信頼)が多いと
少々の失敗は看過される
が、少なくなると小さな失敗
が致命傷になり得る

1. はじめに

国会は5月1日閉会。5月9日の2012-13年議会の開会・女王のスピーチまで休会。3月の予算以来、キャメロン政権は苦難続きで、一息つきたいところだと思われます。

2. オムニシャンブルズ

発足以来2年の連立政権を率いるキャメロン首相は、3月21日の予算発表以来、オムニシャンブルズ Omunishambles という状態に陥っています。これは、何もかもが滅茶苦茶でうまくいっていないという状態を指す言葉です。

不思議なもので、時に、問題が次々に出てきて、出口が見えないということがあります。不用意な発言や十分検討せずのことを運ぶことがその最大の原因ですが、慎重にことを運んだつもりでも、なかなか完璧にはできません。政治には、こういう時期があると理解する方がよさそうです。ただし、キャメロン首相の場合、このためにポリティカルキャピタル(国民からの信頼)が大きく減り、支持率が大きく下がるという結果を招きました。つまり、問題が起きて、ポリティカルキャピタルの減少をいかに最小限に抑えることができるかで、手腕が問われます。

どのような問題が起きたのか、ここで整理しておきたいと思います。

1. **おばあちゃんタックス**: 年金受給者への税の特別控除を徐々に減らすことが高齢者の怒りをかった。
2. **ガソリンパニック**: ガソリンやディーゼルオイルをガソリンスタンドに運ぶタンクローリーの運転手がストに賛成したため、政府は、これらの燃料を灯油缶で買いためておくようにと勧告。その結果、ストが決まっていなかったのにパニック買いが起きた。
3. **チャリティタックス**: 裕福な人たちの税回避防止に税控除制度を制限しようとしたが、その結果、慈善事業に大きな影響が出るのがわかった。
4. **パステイゲート**: コーニッシュパステイやパイなど温めて販売する食べ物に VAT(日本の消費税に相当)を20%かけることに消費者が反発。
5. **キャラバンタックス**: 移動式住宅に VAT をかけることとした。このため、2千人が失業するとの批判。
6. **チャーチタックス**: 文化財指定建造物の修復改造に VAT をかけることとしたが、教会建物に最も影響が出るのがわかった。
7. **イスラム教過激説教師強制送還問題**: ヨルダンへの強制送還を下院で意気揚々と発表した内相が、欧州人権裁判所の上訴期限を一日誤っていたようで、この強制送還が可能になるまでにはまだかなり時間がかかるのがわかった。
8. **入国手続きの遅れ**: ヒースロー空港などで入国者の手続きが大きく遅れ、2~3時間待つ例が出てきているが政府の対策が後手に回っている。
9. **文化相の BskyB 問題発覚**: 文化相が、メディア王マードック氏の衛星放送会社 BskyB 買収の試みに便宜を図ったのではないかという疑惑
10. **リセッション**: 昨年第4四半期に続き、今年第1四半期も GDP がマイナス成長となった。政府の大幅財政緊縮策が、成長を阻害しているのではないかとの批判。

3. スコットランド独立問題

スコットランドの独立に関する「国民投票」が 2014 年秋に行われる見込みです。私はエディンバラ 1 年、グラスゴー 4 年と、スコットランドに 5 年住んでいました。

私にはスコットランド人のよい印象が多いのですが、妻はバーミンガム出身で、スコットランド人の反イングランド感情を肌身に感じていました。スコットランド人の英雄は、13 世紀から 14 世紀にかけてのウィリアム・ウォレスや 18 世紀のボニー・プリンス・チャールズですが、2 人ともイングランドと戦った人物です。

1603 年に一人の王がジェームズ 6 世としてスコットランド、ジェームズ 1 世としてイングランド(とアイルランド)の王位に就きました。この王は、両国を合併しようとしたが、両方とも嫌がり、成し遂げられませんでした。1707 年になってイングランド(1536 年に既にウェールズが併合されていましたが)とスコットランドが合同国となり、スコットランド議会在ウェストミンスター議会に統合されました。なお、アイルランドは 1800 年の合同法で翌年併合されます。1999 年にスコットランド分権議会在が開かれた時、1707 年に閉会された議会在が再開された、と宣言されました。

20 世紀に入り、1979 年に分権に関する「国民投票」がスコットランドで実施されましたが、否決されました。ブレア労働党政権で実施した 1998 年の「国民投票」では、74%の賛成を得て可決され、スコットランド議会在が設置されました。

独立を党是とするスコットランド国民党 SNP が現在、スコットランド議会在の多数を占めています。この政党は 1934 年に創立されましたが、1966 年まで総選挙ではスコットランドの 5%未満の得票しか得られていませんでした。2010 年の総選挙では 20%です。一方、スコットランド議会在では、1999 年に 29%で 129 議席中、35 議席、2003 年には 27 議席と議席数を減らしました。しかし、2007 年の 47 議席で少数与党となり政権を握り、無難な政権運営を行いました。2011 年には 45%を獲得し、本来、過半数を得る政党が生まれにくい小選挙区比例代表併用制の下、69 議席で過半数を獲得しました。この原因の一つは、ウェストミンスターで連立政権に入った自民党の凋落です。

SNP は、500 万強の人口を持つスコットランドより小さな、500 万弱のノルウェーらの例を挙げ、これらの国が成功しているなら、スコットランドも北海石油などの資源を活用し、より良い国造りができるはずだと主張しています。

これを受けて、連立政権は、1707 年の合同法や 1998 年のスコットランド法では、ウェストミンスターに権限があり、スコットランドが勝手に拘束力のある「国民投票」はできないと主張しましたが、スコットランドは自ら決める権利があると譲りません。キャメロン首相は、拘束力のある「国民投票」を認める用意はありますが、その時期と内容について異議があります。それでも SNP は今のところ時期について譲る気配がありません。法的な問題と正当性の問題がぶつかっています。SNP 政府は 2014 年秋に「国民投票」を実施するとしていますが、この年は、スコットランド軍がイングランド軍を破った 1314 年のバノックバーンの戦いの 700 周年にあたります。

2012 年 3 月の YouGov の世論調査では、独立への支持は 32%、反対は、53%。反対が上回っていますが、これにいわゆる DevoMax というスコットランドの権限を拡大する項目を挿入すると、票は三分します。その他、スコットランド王朝とイングランド王朝の両方の流れをくむエリザベス女王の元首に賛成の人は 60%。通貨のポンドを維持したいという人は 82%。いずれにしても独立の道はまだ遠いようです。

かつてはスコットランドもイングランドも統一を嫌った

SNP への支持は過去 50 年で徐々に上昇

4.北アイルランド問題



北アイルランドの問題は、行って見てみなければなかなか理解しづらいと思います。ベルファストで驚くのは、家などの壁面の大きな絵と、町の中に高く立つ、いわゆる「ベルリンの壁」です。その壁の間に樋門のような大きな鉄扉がところどころあります。この壁は、いわゆるナショナリスト、つまりカソリック教徒と、ユニオニスト、つまりプロテスタントの地域の間を区切るもので、問題があれば、鉄扉が閉じられます。壁画には、それぞれの立場のヒーローや主張が描かれており、それぞれの地域に異様な雰囲気があります。今では、これらの場所に立ち寄るツアーがあります。

「トラブルズ」と言われる、二つの立場の対立は、北アイルランドの、南部のアイルランド共和国との統一を求めるナショナリストと、グレートブリテン（イングランド・スコットランド・ウェールズ）との関係の維持を主張するユニオニストとの対立です。

アイルランドは独立国として長い間存在してきました。1533年にイングランド王のヘンリー8世が、ローマ教皇が自分の離婚を認めなかったために、カソリックから離れ、英国国教会を設立しました。しかし、アイルランドでは、カソリックの教えを維持したために、イングランドとアイルランドで異なる宗教を信じることとなりました。

この宗教の問題がアイルランドのその後に大きな意味を持っています。アイルランドは1801年に英国に併合され、カソリックは差別的な取り扱いを受けていましたが、1829年に下院議員となることが許されました。1922年に南アイルランドは自由国となり、1949年にアイルランド共和国が生まれます。一方、北アイルランドは英国の支配のままでした。多数を占めるユニオニストが北アイルランド議会のリーダーシップを取り続けており、カソリックは差別されていました。共和国との統一を求めるナショナリストたちの中には、IRAに代表されるように武力を行使する勢力が強まり、英国政府がそれに対抗する手段を取りました。そのためIRAは後にサッチャー首相やメージャー首相を暗殺しようとした。

北アイルランドの政治

- ナショナリストとユニオニストのコンセンサス最重視
- 第一首相と副第一首相は両側から選ばれ、権限が同じ
- 大臣ポストはドント方式で両側に割振り

メージャー政権で先鞭をつけた両側の立場の交渉をブレア政権がさらに進め、アイルランド政府と協力し1998年にはついにベルファスト合意に到達しました。この合意のカギの一つは、IRAの武装放棄でしたが、この実現は2005年となります。北アイルランドと南のアイルランドで国民投票が実施され、北アイルランドではこの合意に71.2%が賛成、南では、北を固有の領土とした憲法の改正に94.4%が賛成しました。

1998年6月の最初の選挙では、穏健派がそれぞれの立場の多数を占めました。しかし、その後、自治が停止され、再び英国政府が統治するなどかなり動揺しました。2002年から2007年の間も自治が停止されました。この状況を受け、2003年の選挙では、いずれの側も強硬派が躍進しました。

2006年10月のセントアンドリュース合意で、警察の問題とユニオニスト強硬派のDUPの政権参画問題が片付き、2007年3月の選挙後、DUPが第一党として、党首のイアン・ペースリーが第一首相となり、それまで宿敵であったIRAの政治組織シンフェインのマーチン・マクギネス(元IRA幹部)が副第一首相に就任しました。2人の関係は「くすくす笑いの兄弟」と言われるほど近いものになりました。

平和になった北アイルランドには投資が活発化しましたが、ナショナリストの中には納得しない者たちもあり、リアルIRAなどの団体が今でも爆弾事件や警官殺傷事件などを起こしています。しかし、状況は落ち着いていると言えます。

5. 英国新旧政治家列伝

1. ウィンストン・チャーチル(1874—1965)

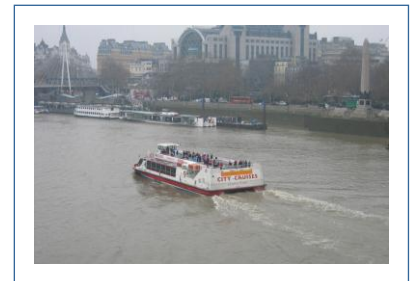
元首相チャーチルは、英国では今でも最も人気のある政治家です。チャーチルは自分が国のために働く運命を信じていました。貴族の生まれでしたが、成績不良のためサンドハースト士官学校で騎兵将校となります。配属されたインドで、英国議会の議事録を取り寄せ、自分が政治家ならどうするか勉強したと言われます。

軍人として 50 以上の実戦を経験し、南アフリカで敵方の刑務所から脱走し、首に賞金(生死に関わらず)がかけられた話や、内相時代に被っていた山高帽に銃弾が通過した話など、命を失いそうになった数々のエピソードがあります。第一次世界大戦で海軍大臣として失敗し、その後長い失意の時代が続きますが、ヒトラーの危険性を早くから訴えていました。

第二次世界大戦が始まった後、たまたま、他の人が首相となるのを断ったため、そのお鉢がチャーチルに回ってきました。チャーチルは、この時を待っていたと言い、国民を鼓舞し、最終的に連合軍の勝利を導きます。

しかし、首相時代のチャーチルは、軍事以外あまりいい首相ではなかったようです。閣議などの重要な会議に書類を読まずに出席し、救国政権で副首相を務めたアトリーが、チャーチルに手紙を書いて嘆願する事態に至りました。それでもあまり変わらなかったそうです。1945 年の総選挙で国民は労働党を選びました。6 年後チャーチルは再び首相に返り咲きましたが健康問題で首相の職務をこなすことは難しい状態になります。1955 年まで居座りましたが、引き際を誤った一つの例と思われれます。

テムズ川のボート



雑記

英国の政治は、ほんとうにこのままで大丈夫なのだろうか？ 4 月 30 日の下院でのキャメロン首相とグリーン出入国管理担当相の声明と質疑を見ていて思いました。

キャメロン首相は、メディアの世界で大きな影響力を持つルパート・マードック氏が、英国の衛星放送会社 BskyB を完全子会社にしようとした件で、文化相に關したものでした。首相は、この呼び出しに「怒っていた」と伝えられますが、党派的なものはもちろん、妥当と思われる質問にも答えず、質問者を攻撃し、52 分間今までの立場を繰り返すだけです。

次のグリーン出入国管理担当相も同じで、ヒースロー空港などで入国手続きの待ち時間が非常に長くなっているとの批判に対し、ほとんど目標以内だと強弁し、批判的な質問に攻撃的に対応しただけでした。与党の保守党議員は、提灯質問を繰り返し、キャメロン首相とグリーン担当相を援護しようしました。与野党とも大声でヤジを飛ばしています。

野党側にも、きちんとした議論や証拠なしに党派的な質問や攻撃を繰り返すことに大きな問題があります。首相のクエスチョンタイムでも同様ですが、今回はそれが行き過ぎており、政府側も野党側もこれでは国民に理解を求めることは無理だと思いました。

第 26 回社会態度調査の発表があった際、現在の選挙制度への支持が非常に高くなっている一方、主要政党の党首への国民の評価が過去最低レベルまで下がっていることに対して質問しました。政治家が国民との関わり合いを深めようとするのが重要だとの答えでした。これには同感です。政治が、政治家だけのものではなく、国民が理解でき、より身近なものとなるようにすることが大切です。しかし、現実の政治は、それとはかなり違う方向に動いているようです。英国の政治をさらに批判的に見ていく必要があると思われれます。

5. 英国新旧政治家列伝

2. デービッド・キャメロン(1966 年生まれ)

現在の保守党と自民党の連立政権を率いる首相ですが、今やその能力が問われています。2005 年保守党党首選で当選 2 回ながら予想外の勝利を勝ち取りました。それ以来率いる保守党が 2010 年 5 月の総選挙で過半数を獲得できず、自民党と連立を組みました。

裕福な家に生まれ、13 歳から私立寄宿制のイートン校で学び、オックスフォード大学卒業後、保守党本部で勤務。財相や内相のスペシャルアドバイザーを務めた後、現在の妻サマンサと結婚するにはもう少し収入が必要と民間のメディア会社で勤務した後、下院議員に当選。

もともと政党官僚・PR マンで、今でも何をやりたいのかわからないとの指摘があります。しかし、PR マンらしく状況判断力が鋭い人物。友人やスタッフとの関係を重んじ、容易に人を切ることがありませんが「仲間内重視」で一般人の気持ちがわからないと批判されています。

ビッグソサエティの基本的な考えは、長く持っていたようですが、その骨格は、友人でストラテジストのステーブ・ヒルトンのものです。政権就任後 2 年で、国民からの支持が大きく減少してきました。5 年定期国会法で、次の総選挙は 2015 年に行われる予定ですが、保守党と自民党の関係がそこまで続くかどうか？この 2 党の関係の焦点は、この 5 月 9 日の女王のスピーチで発表される「上院改革案」です。自民党のクレグ副首相は是非達成したいとしていますが、保守党の中からも反対が多く成否は不透明です。キャメロンには鋼のような根性があると友人が言っていますが、そのような面が発揮されるかどうかで、キャメロン政権の命運が決まると思われれます。



ホースガーズの衛兵

6. 英国で報道された日本

英国で最近報道された日本関係のニュースから

- ① アラスカで見つかったサッカーボール
東日本大震災の津波で陸前高田から押し流されたサッカーボールがアラスカで見つかった。見つけた人は日本人でボールにかかれた名前です所有者がわかったという。
- ② キャメロン首相の訪日と武器共同開発合意
キャメロン首相がインドネシア、ミャンマーなどを訪問する前に日本を訪問し、野田首相と武器の共同開発について合意した。
- ③ 北朝鮮問題と防衛を強化する日本
北朝鮮が大陸間弾道ミサイル打ち上げを失敗したが、日本は北朝鮮と中国を警戒して防衛強化を図っている。
- ④ 沖縄米軍の一部撤退
沖縄米軍が沖縄駐在の 9 千の海兵隊をグアムやハワイなどに移すことを日本政府と合意した。
- ⑤ 小沢一郎氏無罪
「閻將軍」などと呼ばれる与党民主党元党首で実力者の小沢氏が政治資金問題で無罪となった。
- ⑥ 英国人英会話講師殺害犯の控訴棄却
- ⑦ 日本の「失われた 10 年」
野党労働党のポールズ影の財相が、政府の財政緊縮策と英国経済のリセッションを攻撃し、このままでは、日本の 90 年代の「失われた 10 年」の二の舞だと発言した。

菊川智文
英国政治アナリスト
京都大学法学部、松下政経塾卒
英国スターリング大学 PhD
著書「英国政治はおもしろい」 (PHP)

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk